

難聴学級べるだより



2025 年（令和 7 年）3 月 26 日（水）



春は出会いと別れの季節。入学や進級を控える子どもたちの 1 年の成長を振り返ると、いろいろな場面が思い出されます。1 年間の思い出を胸に、新しいクラス、新しい環境でも自分らしさを発揮しながら、笑顔いっぱい楽しく過ごせることを願っています。

自分を知ってもらおう！「セルフアドボカシー」

「セルフアドボカシー」ということばを知っていますか？これは、**自分に必要なサポートを得るために、自分のことを周りに説明して理解を得ること**です。自分の聞こえの状態を理解し、必要な支援を求めることは、その子自身の生きやすさや、自己発揮にもつながっていきます。園では以下のことを意識して、セルフアドボカシーの力をつけていけるよう取り組んでいます。

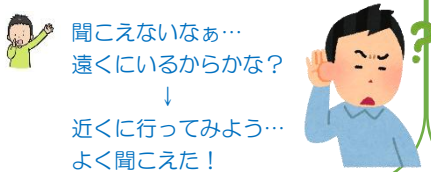
自分の「きこえ」について表現する

- 音や声が、自分にとって小さすぎるのか、大きすぎるのか、ちょうどよく聞けるのか…自分の力で表現する



きこえにくいときの改善策を考え、一緒に試す

- 話し手からの距離、雑音が入りやすい環境などに気付き、より聞こえやすくするための方法を一緒に考えて試す



補聴器や人工内耳の管理

- 補聴器や人工内耳が外れそうになった時に、自分でつけ直す
- プールなどで外したときは、保管容器に入れる
- 補聴器や人工内耳のトラブルを大人に伝える



耳の話をした後、遊んでいる時に友達に「なんで（補聴器を）つけてるの？」と聞かれた Eくん。「ないと聞こえんのよ」と自分なりに相手に自分の聞こえのことを伝えていました。年上児と人工内耳や補聴器について話した姿が記憶に残っていたのかな、と思います。

異年齢で自分たちの聞こえについて話をすることも、セルフアドボカシーの力をつけていくための大切な時間になっていると感じた一場面でした。

ロジャーってなあに？



補聴器や人工内耳は、騒音下や離れた位置からの会話では聞き取りが難しくなります。補聴援助システム（ロジャー）は、20m程度の範囲内であれば、話し手がマイクを使うことで聞き手の補聴器や人工内耳まで直接ことばを届けることができます。

西幼稚園にも、「ロジャー タッチスクリーン」という種類のロジャーがあります。

使用を開始する際、子どもと一緒に「これを使うと自分の聞こえ方がどうなるか」「どんな場面で使ってほしいか」ということを一緒に考えていきました。環境や場面が変わっても、自分にとって必要な支援を自分の言葉で伝えていけるといいなという願いを持って取り組んでいます。

